

令和6年度

運営に関する計画

<最終評価>



大阪市立香箆小学校

大阪府立香簀小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和4年3月、新たな「大阪市教育振興基本計画」が策定された。そこでは①「安全・安心な教育の推進」②「未来を切り拓く学力・体力の向上」③「学びを支える教育環境の充実」と3つの最重要目標が示された。

①では「社会のルールを理解し自ら律する力、他者を尊重し思いやる心、適切な人間関係を築くコミュニケーション能力、多様性や違いを受け入れる力など、子どもたちの道徳性・社会性の育成に努めます。」とある。学校教育アンケートでは、「あいさつがしっかりとできている。」と肯定的な回答をする児童は95%(前年89.8)となり3年連続で上昇している。

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」と肯定的な回答をする児童は96.1%(98.4)で、高い数値となっている。本年も児童会が中心となり、あいさつ運動、あいさつボランティアや美化ボランティアなどに取り組み、あいさつの大切さを学び、自己有用感である「人に役立つことの喜び」と自分自身の成長につなげる取り組みをおこない、引き続き道徳性・社会性の育成に努める。また、防災・減災への意識が高まる取り組みとして多様な方々と関わり、命を守る行動がとれるよう継続的に取り組む。

②では国語科を研究教科とし、今まで積み上げてきた級友間での話し合い活動をさらに充実させ、「深い読みから表現へ～活かす学びの充実～」をテーマに推進を図る。新学習指導要領国語科に「伝えたいことを明確にする」「構成を考える」とあることから、表現力を伸ばすことを目的とし「自分の考えを深めたり、広げたりすることができる授業づくり」に取り組む。学校教育アンケートでは、「勉強は自分からする」と肯定的な回答をする児童は増加傾向となった。今後も家庭学習の定着や児童が主体的に学習に取り組める授業改善に取り組む。体力の向上については、かけ足集会やなわとび週間を継続して実施することによって、児童が自主的に運動に親しむ習慣を持つように今後も努める。

③では第1に個別最適化したデジタル化への対応や一人一台端末のさらなる活用に取り組む。第2に一人あたりの平均時間外勤務時間が、大きく減少し、成果をあげた。本年も効率的な校務運営に取り組む。第3に教員の資質向上に向けアップデートを常に意識し、養成段階に身に着けた知識技能だけに捉われず全員が自己研鑽に励む。

なお、令和6年度 香簀小学校教育指針で共有したことを常に確認し合い、各課題に対し前向きに取り組む。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を41.7%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76.2%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を昨年度以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回実施する。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。
- ・研究授業・検討会、教員研修会やメンター研修会を開催し、専門的な知識・技能を習得することを目指す。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。【R5 81.3】
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【R5 1.23】
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。【R5 33.3】
- ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」を肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。【R5 93】

学校の年度目標

- ・年度末の校内調査において、あいさつに関する児童の回答肯定的割合が95%を上回るようにする。【R5 95】
- ・年度末の校内調査において、児童会活動を充実させる取り組みを年3回以上行う。
- ・年度末の校内調査において、道徳教育についての児童の回答肯定的割合をすべて85%以上にする。
- ・学校教育アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して児童回答肯定的割合を97%以上にする。【R5 96.1】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を42%以上にする。【R5 41】
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が前年度を上回るようにする。【R5 89.3】
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が前年度を上回るようにする。【R5 68.1】

学校の年度目標

- ・子どもの発達に応じた健康に関する指導に定期的に取り組む。
- ・食と健康に関する指導に年2回以上取り組む。

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の85%にする。【ただし。事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。】
- ・デジタル教材を活用した朝学習を週3回実施する。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合が昨年度を上回るようにする。【R5 95】

学校の年度目標

- ・研究授業・検討会、教員研修会やメンター研修会を開催し、専門的な知識・技能を習得することを目指す。
- ・地域との交流会（年3回以上）の実施、学校HPの充実、オープンスクールなどを通して開かれた学校づくりを推し進める。

本年度の自己評価結果の総括

大阪市教育振興基本計画の基本理念には「全ての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立することをめざします。あわせて、グローバル化が進化した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となることをめざします」とある。さらに、**子どもの最善の利益のために3つの最重要目標**が定められ、とりわけ「安全安心な教育の推進」のひとつめにある「いじめへの対応」「不登校への対応」については、特に重点的に取り組むものとされている。

すなわち、販売店や営業所であれば、自社の製品を常に見直し、新しいアイデアのもと新製品を生み出すことや、世間に対し新製品の良さをアピールし販売を促進するなど、営業利益を高める努力が求められる。これを、私たちに照らし合わせるとするならば、本校児童に最善の利益をもたらせ、保護者・地域に一定の満足を感じてもらうことや、児童一人一人に力強く未来を切り拓くための資質・能力を養わせることに注力し、それぞれの立場で実践することが求められている。これらを共通理解とし、邁進することで市民志向・保護者ニーズにも対応した学校運営が構築され、PCDA サイクルを回しつつ、スパイラル的に向上することが重要である。(会社経営と学校運営の比較であり、児童と製品との比較ではない)

【安全安心な教育の推進】

年間30日以上欠席児童が令和6年度2名(R5年は2名)と昨年度と同数で、オンラインの活用等の充実にも至っていない。不登校児童の学習機会を意識した取り組みはもちろんのこと、保護者の理解や協力が重要である。また、いじめの問題に対し大阪市は「教育振興基本計画」において、たとえ軽易な事案であっても見逃さずに毅然とした指導を行うこととし、本校では「いじめアンケート」を年間5回に増やし、さらなる事案発見に努めている。そのうえで、学校だけでは解決が困難な事案について、弁護士、臨床心理士、社会福祉士、医師、警察官経験者などで構成する「第三者専門家チーム」を派遣し、専門性を生かした支援を行う等の学校サポート体制が構築された。これらを踏まえ、本校における「いじめへの対応」については、弁護士派遣を依頼し、教育委員会による研修や指導を受けつつ改善をめざしている。

大阪市では、**令和7年度末までの目標を「学校に行くのは楽しいと思えますか」**肯定的な回答を**85%**、「**人の役に立つ人間になりたいと思えますか**」肯定的な回答を**96%**、「**学校のきまりを守っていますか**」肯定的な回答を**92%**としている。

- ・「学校は楽しい」と肯定的な回答をする児童は**91.8%(95.6%)**、保護者は**94.5%(96.8%)**である。〔()はR5年数値〕
- ・「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的な回答をする児童は**95.2%(96.2%)**である。
- ・「きまりを守って生活できている」と肯定的な回答をする児童は**89.8%(92.5%)**、保護者は**89.8%(94.9%)**である。

本校学校教育アンケートでは、昨年度に比べて減少し、全市目標を下回る項目も見られた。今回は児童アンケートにおいても家庭で相談のうえ回答することとしたことも多少は影響したと考えるが、次年度への働きかけを見直すべきである。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・「授業内容が理解できているか」と肯定的な回答をする児童は**91.2%(93.7%)**が、保護者は**88.4%(89.7%)**である。
- ・「勉強は自分からする」と肯定的な回答をする児童は**70.1%(77.8%)**、保護者は**55.1%(69.6%)**である。
- ・「教科を中心に、朝学習等を通して学力向上に取り組んでいるか」と肯定的な回答をする保護者は**89.2%(94.9%)**である。
- ・「少人数指導や専科指導で効果的な学習に努めているか」と肯定的な回答をする保護者は**96.2%(93.3%)**である。

今年度より全学年で教科専科指導を導入し、多様な大人と関わることで授業への興味・関心が高まるよう取組んだ。また、学力向上支援事業では、全国調査に関する傾向を検証した研修を実施するなど、これからの時代に求められる「学力」について理解できるよう、**中教審「令和の日本型教育」**や**令和5年6月に閣議決定された教育振興基本計画の参考が重要**と考える。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・「学校は、学校生活について情報発信をしていますか」と肯定的な回答をする保護者は**96.6%(98.7%)**である。
- ・「ICTを積極的に活用し効果的な授業実践に取り組んでいるか」と肯定的な回答をする保護者は**84.9%**である。

振興基本計画で重点としているICTを活用した教育の推進、働き方改革の推進、教員の資質向上・人材確保の目標項目に基づき、**社会の変化に素早く、そして柔軟に対応**することはもちろん、**市民志向への意識改善についても前向きに捉えながら地域、保護者に愛される学校をめざす**。また、各サポーターとして関わる職員は本校卒業生の保護者であり、地域との連携を図るパイプ役とし、地域学校協働活動の推進においても一層の充実をめざす。

大阪市立香簀小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標</p> <p>①令和6年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。【R5 81.3】→今年度86.2%</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【R5 1.23】→今年度1.35</p> <p>③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。【R5 33.3】→今年度分析結果待</p> <p>④小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」を肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。【R5 93】→今年度95.2%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>⑤年度末の校内調査において、あいさつに関する児童の回答肯定的割合を95%を上回るようにする。【R5 95】</p> <p>⑥年度末の校内調査において、児童会活動を充実させる取り組みを年3回以上行う。</p> <p>⑦年度末の校内調査において、道徳教育についての児童の回答肯定的割合をすべて85%以上にする。</p> <p>⑧小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」を肯定的に回答する児童の割合を97%以上にする。【R5 96.1】→今年度95.2%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめの早期発見に取り組み、教職員の連携を強化し、児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。</p> <p>指標 いじめアンケートを年間5回取り組み、「あなたはいじめを受けていますか」の項目の答え「はい」といういじめと判断される事案を7%以下にする。→今年度4.8%</p>	B
<p>取組内容②③④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童の学校生活におけるあいさつへの意識を高め、あいさつをしようとする態度を育てる。</p> <p>指標 学校教育アンケート「あなたはあいさつがしっかりできていますか」の児童回答肯定的割合が95%を上回るようにする。→今年度88.4%</p>	B
<p>取組内容②③⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童会活動を充実させ、互いに認め合える集団作りをより目指すとともに、児童が楽しいと感じる学校づくりに努める。</p> <p>指標 学校生活ふりかえりカードにおいて「スマイル班活動では他の学年の友達と協力することができましたか」の児童回答肯定的割合を90%以上にする。さらに、児童会活動を充実させる取り組みの実施回数は年3回以上を目指す。→今年度99%</p>	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童会活動での奉仕活動(あいさつボランティア、美化ボランティア等)を通して、将来を見据えたキャリア教育を実践する。</p>	B

<p>指標 学校教育アンケートにおける「人の役にたつ人間になりたいと思いますか」に対して児童回答肯定的割合を97%以上にする。→今年度95.2%</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 週に1度の道徳の授業と全教育活動における道徳教育（道徳科を中心としたカリキュラムマネジメント）の充実を図り、児童の学びに向かう人間性を高める。</p>	B
<p>指標 毎学期末に行う道徳に関する児童アンケートにおける「道徳の授業では、お話や友達の意見から学ぶことができましたか」に対する児童回答肯定的割合をすべて85%以上にする。→今年度（項目平均：91%）</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 → B 目標値7%以下→4.8%</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめの早期発見のために、「いじめアンケート」を年5回実施し、アンケート結果から聞き取り調査を行い、問題行動について早期解決に取り組んだ。日々の心の天気や相談申告機能の活用など長期休業中も併せて行き、安心安全な生活環境づくりを実現した。 ○ 週1回の主任会をいじめ対策防止委員会として児童の情報共有を密に行うことで組織的に動き、いじめにつながる事案の早期発見に努めた。その結果、「いじめと判断される事案を7%以下にする。」という数値目標を上回る結果（4.8%）となった。 △ 落書き事案に関しては個別の対策委員会を設けているが、解決に至っていないのが現状である。継続的な指導と更なる教職員間の連携が必要である。 	
<p>取組内容②③④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 → B 目標値95%→88.4%</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童会を中心に前期にあいさつスローガンの選定、朝から元気届け隊、あいさつ週間の一貫した流れでの活動のおかげで1年生からも元気にあいさつができた。 △ 後期もあいさつスローガンを学校全体で考え、更に取り組みを広げられるよう高学年を中心に朝のあいさつ運動を行った。しかし、学校教育アンケート「あなたはあいさつがしっかりできていますか」の児童回答肯定的割合は88.4%にとどまり、目標数値である95%を上回ることが出来なかった。あいさつ運動だけでなく、普段からあいさつのできる習慣を身につける必要がある。 ○ 楽しみながらあいさつ運動を行えるよう「かーみーの木」の取り組みも行った。三学期には、次年度へつなげられるよう、4・5年生によるあいさつ運動の取り組みも行われ、活気あるあいさつ運動が行われた。 	
<p>取組内容②③⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 → A 目標値90%以上→99%</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ スマイル班活動では、夏祭り・折り鶴づくりなど様々な異学年交流の取り組みを行うことができています。各学年児童が自分の役割を意識し、自己有用感や自己肯定感を高め、学校生活を充実させることができた。 ○ 後期には全校遠足を実施し、児童同士が協力したり、高学年が活躍できる仕掛けを作ったりするなど、教職員でアイデアを出し目的に合わせて内容を工夫した。その結果、学校生活ふりかえりカードにおいて「スマイル班活動では他の学年の友達と協力することができましたか」の児童回答肯定的割合は99%と目標数値を大幅に上回った。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 → B 目標値97%以上→平均95.2%</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎年行われるボランティア活動では奉仕活動への前向きな姿勢を感じることができた。前年度までの取り組みから引き継がれてきたものであり、毎年継続的に取り組みを行うことで奉仕活動への意識を全体的に高めることができた。 △ 月にあいさつボランティア、2月に美化ボランティアを実施し、将来を見据えたキャリア教育を実践することができた。学校教育アンケートにおける「人の役にたつ人間になりたいと思いますか」に対して児童回答肯定的割 	

合は学校平均で 95.2%と目標数値の 97%以上には若干届かなかったものの、人の役に立ちたいという意識に基づく行動をとることが出来た。

取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 → **B** 目標値 85%以上→項目平均 91%

- カリキュラムマネジメントの視点から、他教科や学校行事などに関連づけて教材配置を行うことができた。また、学習の中で、主体的・対話的で深い学びを通して、日常へ活かす姿も増えてきた。
- 香簍オリジナルカリキュラムマネジメント表も研究部と連携し、見直し修正を図ることができた。道徳アンケートにおける課題を学年部で見合わせ、児童の学びに向かう人間性がさらに高まった。
- 毎学期末に行う道徳に関する児童アンケートにおける「道徳の授業では、お話や友達の意見から学ぶことができましたか」に対する児童回答肯定的割合は、道徳の授業はたのしみですか (86%)、自分の考えを広げたり高めたりすると思いますか (93%)、お話や友だちの意見から発見や共感がありましたか (95%)、道徳の学習とほかの学習をつなげて考えることはありましたか (91%) と全児童の約 90%以上が肯定的にとらえることができた。その結果、目標数値であるすべて 85%以上にする項目を達成することができた。
- △ しかし、3年生、4年生、5年生にネガティブな回答が増加した。単純に「道徳科の授業が楽しみ」ではないという意見があり、児童が前向きに取り組めるような導入の工夫、映像資料やロールプレイングなど教材に合わせて多様なアプローチをする必要がある。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・ いじめの早期発見、教職員の連携強化への取り組みの継続
- ・ いじめアンケートや心の天気などに表れてこない児童の思いへの共通認識
- ・ 週1回の主任会やいじめ防止対策委員会、また、生活指導部会などでの情報共有の継続

取組内容②③④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・ あいさつ運動だけでなく、普段からのあいさつの習慣化

取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・ 低学年も参加できるような取り組みの幅を広げた奉仕活動

取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・ 三学期の取り組みの整理
- ・ 総合的読解力育成プログラムと結び付けた道徳教育の推進
- ・ 講堂改修に伴う行事等の整理と計画・実施

大阪市立香簗小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 42%以上にする。【R5 41】→今年度 42%</p> <p>②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。→今年度-0.25（どの学年も国語か算数のどちらかの教科は目標を上回ることができたが「どちらの教科もいずれの学年も）は達成できなかった。）</p> <p>③小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が前年度を上回るようにする。【R5 89.3】→今年度 79.9%</p> <p>④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が前年度を上回るようにする。【R5 68.1】→今年度 70.2%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>⑤子どもの発達に応じた健康に関する指導に定期的に取り組む。</p> <p>⑥食と健康に関する指導に年2回以上取り組む。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語や道徳を中心にICT等を活用しながら主体的で対話的で深い学びを成立させる指導の授業研究に取り組む。</p> <p>指標 授業改善のための計画・立案・実施においてスクールアドバイザー等に年間3回以上指導助言をもらい、授業研究に取り組む。その結果、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 42%以上にする。【R5 41】→今年度 42%</p>	B
<p>取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>習熟度別少人数指導などの学習形態を活用し、児童一人ひとりの能力や理解・習熟の程度に応じて、基礎基本の定着を図る学習や発展的な学習を行い、個々の力をそれぞれ伸ばす。</p> <p>指標 専科や習熟度別授業の児童アンケートで「わかりやすくなった」「どちらかというとなりやすくなった」という回答を 85%以上にする。→今年度 97.4%</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>自然との関わりを大切にし、理科的な見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察・実験を行い、体験を重視した授業づくりや理科観察実験の充実を図る。</p>	B

<p>指標 小学校学力経年調査における「理科の授業で観察や実験を行うことは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合が前年度を上回るようにする。【R5 89.3】→今年度 79.9%</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体力低下の回復を急がず、感染拡大防止に努めつつ、体育科の授業時に持久力を高める運動内容を取り入れると共に、体力の向上を図るためにラダー・ミニハードル・ジャンピングボード等運動器具の整備・充実を図る。トップアスリートなどの招聘などを通して、体力向上と運動への意識を高める。</p>	B
<p>指標 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が前年度を上回るようにする。 【R5 68.1】→今年度 70.2%</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健康な生活習慣の確立を図るため、子どもの発達に応じた健康に関する指導を行い、「ほけんだより」を活用して児童および家庭への啓発を行う。</p>	A
<p>指標 毎月「ほけんだより」を発行し、月1回せいけつしらべを行う。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する指導を行い、「給食だより」「食育通信」を活用して児童や保護者の食への意識を高める。</p>	A
<p>指標 食に関する指導を各学年2回、給食がんばり週間を年2回実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 B (昨年度 41%→今年度 42%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝会で作文を発表させたり、自主学習 DAY を設けたりして、授業の学びをその時間だけでなく、ほかの学習活動や家庭学習にも活用できるような取り組みも行った。 ○ スクールアドバイザーに年間3回以上指導助言をもらい、授業改善を行ってきた。各教科や領域で ICT 機器を有効的に活用し、支援が必要な児童も参加しやすい授業づくりを行ったり、授業内で交流の時間を取り、他者と考えを共有し深めたりしてきた。 ○ その結果、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が42%にすることができ、目標を達成することができた。【R5 41】 <p>取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 B (目標 85%→今年度 97.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単学級ながらも3年生以上では、習熟度別少人数指導などの学習形態を活用し、児童一人ひとりの能力や理解・習熟の程度に応じて、基礎基本の定着を図る学習や発展的な学習を行うことができた。 ○ 習熟指導はもとより専科教員による教科指導によって、発展的内容も含めた学習を展開できた。 ○ その結果、専科や習熟度別授業の児童アンケートで「わかりやすくなった」「どちらかというとわかりやすくなった」という回答を97.4%にすることができ、目標の85%を大幅に達成することができた。 <p>△ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、学年によっては国語が0.04ポイント向上、算数が0.03ポイント向上など、国語算数いずれかは向上したが、いずれの学年でもどちらの教科も向上させるまでには至らなかった。</p>	

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 **B** (昨年度 89.3%→今年度 79.9%)

- 自然事象とふれあい学ぶ理科指導を充実させるため、専科による指導を取り入れるとともに、理科室環境・校内自然環境を整えた。
- 「校内生き物探し」や地域企業による出前授業の実施など、外部と連携した理科発展学習も行った。指導に当たっては体験を重視するため、実験用具をできるだけたくさんの児童に操作させたり、話し合い活動を充実させたりしながら理科の見方考え方を学ばせた。
- △ 小学校学力経年調査における「理科の授業で観察や実験を行うことは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合が79.9%で前年度を下回り、**目標を達成することができなかった。**【R5 89.3】

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 **B** (昨年度 68.1%→今年度 70.2%)

- 朝の集会や15分休憩を活用し、全校でジャンピングウイークやかけあし週間の取り組みを行った。縄跳びカードやマラソンカードを事前に配布し、目で見て分かる指標を作成することで休み時間でも積極的にランニングする姿が見られた。
- ジャンピングボードが新しく整備され、なわとび週間以降もそれを活用して休み時間などに体を動かす児童が増えており、体力向上の意識が図られている。
- トップアスリートによる授業も実施し、実際にプロと呼ばれる方々の技術を近くで見て、普段の授業とは違った面白さを感じる事ができた。
- その結果、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が**70.2%**で前年度を上回ることができ、**目標を達成することができた。**【R5 68.1】

取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 **A**

- 保健だよりを毎月1回発行し、清潔調ベを行うことができた。
- 今年度から取り入れた手洗いカードでは、自分自身で手洗いができているかを振り返ることができた。また、掲示板に結果を掲示することで、クラスでパーフェクトをめざす意欲が高まった。
- 指標である「毎月「ほけんだより」を発行し、月1回せいけつしらべを行う」ことはもとより、上記のような取り組みも行い、**目標を大幅に超えて達成することができた。**

取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 **A**

- 給食がんばり週間も、食に関する指導も年間計画通り実施できた。
- 委員会児童によるビデオでの啓発活動や給食ランキング、給食室ツアーなど児童が給食に興味をもつきっかけとなる多くの取り組みを実施することができた。
- 給食について定期的にHPにあげ、保護者向けの試食会も実施できた。
- 指標である「食に関する指導を各学年2回、給食がんばり週間を年2回実施する」ことはもとより、上記のような多くの取り組みを行うことで、**目標を大幅に超えて達成することができた。**

次年度への改善点

取組内容①②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・ 学習面の二極化に対する具体的な取り組みの検討

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・ 理科室を含む理科学習における環境整備
(ビオトープの整備による生き物環境の改善、理科準備室の継続的な整備と器具の更新)

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・ 運動器具（ボールやコーン）の劣化に伴う器具の整備
- ・ 委員会による少人数でもできる運動遊びの紹介
- ・ 遊び用ボールの変更や体を動かす活動の習慣化、休み時間の過ごし方の工夫

大阪市立香簀小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>①授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の85%にする。【ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く】デジタル教材を活用した朝学習を週3回実施する。</p> <p>②年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合が前年度を上回るようにする。</p> <p>【R5 95】→今年度100%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>③研究授業・検討会、教員研修会やメンター研修会を開催し、専門的な知識・技能を習得することを目指す。</p> <p>④地域との交流会（年3回以上）の実施、学校ホームページの充実、オープンスクールなどを通して開かれた学校づくりを推進する。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>一人一台端末を利用して、朝学習にデジタル教材「NAVIMA」を活用し、主体的に取り組む。</p> <p>指標 朝の学習に週3回以上取り組み、自学自習の習慣を意識づける。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を増やす職場環境を目指す。</p> <p>指標 特に長期休暇（夏季・冬季・春季）を利用して、年間年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合が昨年度を上回るようにする。【R5 95】→今年度100%</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>全員授業、研究授業・検討会を行ったり、メンター研修会を開催したりして専門的な知識・技能を習得することに取り組む。</p> <p>指標 研修後に行うアンケート調査で「研修が充実していたと思いますか」に対して、肯定的な回答をする割合を100%にする。→年度末結果100%</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】</p> <p>地域関係諸機関との連携や学校ホームページの充実、オープンスクールを通して、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>指標 地域との交流会を年3回以上実施し、学校ホームページの全体のアップ数は500回以上を目指す。</p> <p>→2月25日現在 1241回</p>	A

取組内容①【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 A

【NAVIMAの活用】

- 朝学習の時間が週3回しっかりと確保されており、一人一台端末を利用した心の天気の入力や「NAVIMA」を活用した一連のサイクルが身につけており、進んで自学自習に取り組む姿勢の習慣化ができた。
- 主に復習としてNAVIMAを活用し、つまづいた所を近くにいる教員に質問することで苦手を克服できた。また、落ち着いた環境で文字の書き方や計算などの学習に取り組む意欲や態度の向上が見られた。
- 漢字の問題などは正しい書き順と書き方で書かないと合格できないシステムやすぐに採点が行われ、ゲーム感覚で取り組めるなど、児童が楽しみながら円滑に学習を進めることができた。
- 従来の膨大なプリントの準備や朝学習の丸つけなどの管理業務が軽減され、学習の進捗状況を確認しながら児童への声掛けにつなげることができた。

【ICT機器の活用】

- 一人一台端末の児童用PCや大型テレビを通じた指導用ICT機器の活用によって、視覚的、聴覚的にわかりやすく、イメージが具現化されやすい環境が作られていることにより、児童の興味関心を高めることにも役立ち、その結果、学習理解につなげる指導を行えた。

【自主学习DAY】

- 研究部中心の取り組み「自主学习DAY」の推進やテスト前に授業で活用するなど幅広く1台端末を活用することができた。

取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 A

（昨年度95%→今年度100%）

- 5校時までの水曜日にてできるだけ会議を入れず、「ゆとりの日」に設定することで、長期休暇（夏季・冬季・春季）だけでなく、稼業日中でも放課後を中心に年次休暇を取得できる人が増え、結果、年間年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合が昨年度を上回ることができた。
- 長期休業が長くなったことや教職員同士の支え合いにより、更に休暇を取得しやすい環境となった。また、効率的な働き方に努めたり、教職員が声を掛け合ったりすることで、長時間の勤務にならないように工夫した。
- 主任制の導入により、月に一回「午後半休Day」を取り入れた学年もあり、担任の代わりに学年部主任が学級に入ることで、学級担任も安心して休暇を取ることができた。

取組内容③【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 A

（目標値100%→年度末結果100%）

<全員授業・研究授業>

- 担任だけではなく担外の教員も行う全員授業や研究授業が計画的に実施され、研修会や討議会も活発に行われることで、資質の向上に役立てた。また時期についても計画的に実施をしたため、ある一定の月に自習体制を多く取らなければならないという事態も起こらず、滞りなく研究を進めることができた。
- 全員授業を行うことで、多くの助言を得られ授業づくりの参考になった。他の教員の授業を見ることで授業力の向上にも繋がり、研究部を中心に区の研究発表も無事に実施できた。
- 研究授業・検討会では、振り返りやより良くするための方法や改善点をみつけられた。

<メンター研修>

- 先輩教員の授業を参観する「おいでよ週間」やメンター研修会を実施し、実践的な内容に触れる機会を設けることで専門的な知識・技能の習得につながった。
- 先輩教員に質問することで不安を解消することができる充実した場となり、学んだことを実際に取り入れて、より良い授業につなげることができた。
- 研修後アンケートでの肯定的回答は100パーセントとなり目標を達成することができた。

取組内容④【家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】 A

(目標 500 回以上→2月25日現在 1241 回)

- 学年を中心に、日々の授業の様子や学校行事等、学校生活の「今」の状況や考えをホームページで積極的に発信し、地域や保護者が学校の様子を共有できるように努めた結果、目標値をはるかに上回る結果を残すことができ、地域関係諸機関や保護者との連携にもつながった。
 - 入学を検討している保護者に向けたオープンスクールや学校説明会の実施、防災授業・昔遊び・芋ほり・かるた大会・クリーンアップ大作戦など授業や児童会の取り組みを中心に、地域との交流や教育活動が継続的に実施されており、児童の地域への愛着を育てるとともに、活動の様子を十分に伝えることで開かれた学校づくりに寄与した。
- △単学級で担任の負担が大きいため、ホームページのアップ数は無理のない範囲にとどめるべきだと思う。今のままでも十分、学校の様子がわかるように情報発信はできていると考える。

次年度への改善点

取組内容①【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

- ・ 「NAVIMA」で取り組む範囲や朝学習の標準的な計画案の作成
- ・ 学力差に応じて学習内容を自分で考えられるような支援や継続的な取り組み
- ・ 「らっこたん」の活用の推進

取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・ 行事の効率化と年休を取得しやすい職場環境の継続

取組内容③【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・ 体育や理科の実験、図工で絵を描くなど実践的な内容の充実
- ・ メンターを中心とした計画的な研修やスクールアドバイザー・全教員による若手の育成

取組内容④【家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】

- ・ ホームページの積極的な発信の継続

【全体】

- ・ 学習者用端末の活用・年次有給休暇取得・研究授業での授業力向上・開かれた学校づくりなどの取り組みの継続